

The Geology and Mapping of Granite Batholiths

John Cobbing 著 Springer 出版
2000年 141p.

花崗岩に関する本はこれまでに数多く出版されているが、これは花崗岩の野外調査の仕方を中心に書いたユニークな本である。花崗岩に関心をもたれた方であれば、著者の名前をご存知の方が多いと思われる。1972年にロンドン地質学会誌に掲載されたペルーのコースタルバソリスの論文 (Pitcher との共著) は、高度差の大きな山岳砂漠地域での花崗岩の形態をまさに3次元的に明らかにしたとても魅力的な論文であった。当時大学院の学生であった私はこの論文の雄大なスケールに圧倒されたのを記憶している。その後、著者はマレーシアの錫花崗岩でもスケールの大きな仕事をしており、花崗岩バソリスの研究では第一人者といえる。その John Cobbing が、上手な花崗岩の野外調査を指南したのが本書である。どうすれば、比較的短い期間に大きなバソリスをものにできるか、本書には著者の経験に基づいてそのノウハウが書かれている。

本書は以下の章から構成されている。

1. Introduction
 2. System of Classification
 3. Granite Geology
 4. Characteristics of Granite Typology
 5. Field Mapping
 6. Handling the Data
 7. Integrating the Data
 8. The Granite Controversy and its Aftermath
- これらの中で第3章の Granite Geology が圧巻

であり、本書の中でもっとも多くの紙面が費やされている。ここには野外で観察できるありとあらゆる花崗岩の産状が、それらの成因もからめて記述されている。暗色包有物の問題や塩基性マグマ・花崗岩マグマ共存の問題等もよく整理されている。また、第5章のマッピングの章では、花崗岩観察のポイントはもとより、ジャングルや砂漠でのバソリスの調査の仕方についても述べられている。

序文において著者は本書について、長年にわたり開発途上国の地質学者とともに花崗岩の野外調査をしてきた経験にもとづき、主としてそれら第三世界の地質学者を念頭において書いているので、多くの読者には自明と思われることが多々あるかと思われると述べている。本書は花崗岩の野外地質のことがよく整理されて書かれている読みやすい本であるので、花崗岩に関心のある多くの方に推薦できるものと思う。また、近年わが国の地質学者は海外で調査する機会がこれまで以上に多くなっているので、本書に書かれているジャングルや砂漠での著者の経験も役に立つかもしれない。

(笹田政克)